

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400096		
法人名	有限会社サン		
事業所名	グループホーム虹色		
所在地	愛知県名古屋市長区桶狭間北三丁目106番地		
自己評価作成日	令和2年12月23日	評価結果市町村受理日	令和3年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391400096-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム虹色は母体組織が病院なので、介護における医療面でのケアが充実していると考えています。特に精神疾患を併せ持つ認知症の方への対応が充実しています。人工透析をされている方にも、隣接する協力医療機関である「おけはざまクリニック」で透析を受けていただけますし、日常の健診や定期受診も受けていただけます。また職員の教育にも力を入れており、認知症、拘束、虐待等の講習や勉強会を独自に開催したり、セミナーや研修にも参加出来る環境を積極的に作っています。隣接する関連施設と連携し、ボランティアによる演奏会や色々な催し物を共催し楽しんでいます。又、緊急時の対応も協力し合える体制にあり、訓練等も合同で行っております。高齢者特有の疾患や介護に関する市民講座を開催し、地域の皆様に多数の参加を頂いており、今後も地域に密着したサービスの提供を実施していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、関連事業所とは異なり、1ユニット9名の利用者のホームであることで、少人数の職員による支援が行われていることが特徴でもある。利用者への支援に関しては、1ユニットのホームである利点を活かしながら、日常的な職員間での情報交換を通じた業務改善や介護計画に関する検討等の取り組みが行われている。今年度は、感染症問題が起きたことで地域の方との交流が困難な状況が続いているが、例年は、当ホームでも地域で行われている行事に参加したり、ボランティアの方や中学生の職場体験の受け入れが行われており、利用者との交流の機会がつけられている。また、職員研修の取り組みについても、運営法人全体で実施しており、関連事業所間での職員間での交流も行いながら事例等の検討を行っていることで、職員の資質向上につなげる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に提示してあり、朝の申し送りの後職員で唱和している。	ホーム名である「虹色」から考えた理念を職員による支援の基本に考え、申し送りの時間に唱和する等、職員間で理念の共有につなげる機会がつけられている。また、職員間で理念を振り返り、実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の人と顔を合わせれば挨拶や会話を日常的にしており交流を深めている。	今年度は感染症問題があり、交流が困難になっているが、回覧板等を通じた情報交換が行われている。地域の方との交流については、関連事業所とも連携しながら行われており、ホームでも中学生の受け入れ等、地域貢献につながる取り組みが行われている。	地域の方との交流が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で出来ていないが、普段は定期的に市民講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で集まっての開催は出来ないが、二ヶ月に一回文書等による報告をしている。	今年度は書面による実施となっているが、例年は関連事業所と連携しながら実施しており、出席者に運営法人全体の取り組みを知ってもらう機会につなげている。また、会議を通じた勉強会の取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務局側が積極的に連絡をとり、市の介護保険課を訪れ、会議の内容を報告している。	市担当部署との情報交換等については、運営法人の事務局を通じて行われているが、ホームからも講習会や研修会等に参加する機会をつくり、情報交換等につなげている。また、地域包括支援センターとも随時の情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に身体拘束排除宣言を掲示し職員の意識を高め共有している。また合同会議などで研修を行っている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者の状況等にも合わせて外に出る等の対応が行われている。また、関連事業所とも連携した身体拘束に関する検討や職員研修の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同会議で学ぶ機会があり、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度等を活用されている利用者はいないが、今後活用できる場面があれば役立てたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問がないよう利用者様やご家族にしっかり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望を聞けるよう玄関に意見箱を設置してある。また面会時などでもその都度ご家族の要望などに耳を傾けている。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、行事を通じた家族との交流が行われている。家族からの要望等については、運営法人でユーザー評価が行われている。また、利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングなどで出た意見や提案は、合同会議や管理者会議に反映させている。	1ユニットのホームである利点藻活かしながら、職員間での日常的な情報交換等を通じて、管理者が把握した職員からの意見等は、関連事業所との会議等で検討され、ホームの運営への反映につなげている。また、管理者による職員面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の能力を把握して実績に応じた賞与の査定を行っている。勤務の異動では本人の希望も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験、能力に応じた研修などに参加し、法人内の合同会議で発表して全職員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加して同業者と意見・情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、ケアマネがご本人の思いや不安を受け止め、安心してもらうようゆっくりと時間をかけ傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人を交えての話し合いとご家族だけとの話し合いの機会を作り、要望などを聞いている。アセスメントに重点を置いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が一番望んでいることを引き出せるよう傾聴の時間を多くとって、今必要としているサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で参加していただきクッキング配膳、洗濯物干しなど行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月便りで行事を報告し参加の声掛けをしたり、面会時には必要としている情報を話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出が出来ていないが、普段はお盆にお墓参りに行かれたり、ご家族との外食を楽しまれたり、支援に努めている。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には、関連事業所に身内の方が生活しており、可能な範囲で交流につながる機会がつけられている。また、例年は、家族との外出も行われており、食事や買い物等を通じた交流が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様の性格などを把握し、他の方と良い関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、利用者のご家族が手紙などで近況を伝えてくださることもあるので、関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が苦手な方や困難な方には日々の行動や表情から把握するよう努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握につなげ、職員間での共有が行われている。また、カンファレンスやアセスメント等を通じて利用者の意向等を把握、検討し、日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを活用し利用者様の今までの暮らしや考えに沿って支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送り、連絡帳などで入居者様の個々の状態を把握しチームケアに取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、ミーティング、担当者と意見交換したりご本人やご家族とも話し合い介護計画を作っている。また変化時には計画を変更している。	介護計画は6か月での見直しが行われており、利用者の状態等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも職員間で介護計画に合わせた記録を残しながら変化等を把握し、3か月のモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡帳などで気づいた事、情報を記入し職員同士で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望や状態に応じて随時見直しスタッフで話し合い検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で出来ていないが、近所の盆踊りや移動図書、敬老会に参加したり、訪問理美容も利用している。中学校の職場体験もあります		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	要望があれば、かかりつけ医の受診を支援している。それ以外は協力医療機関での受診を支援している。	運営母体が医療機関であることで、医療面での随時の支援が行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な対応につなげている。母体の医療機関以外の医療機関とも連携しており、受診支援等が行われている。また、看護師による支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師に状態の変化や異常などその都度適切な対応が迅速に出来るよう連絡をしている。また、訪問看護も利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・ケアマネが見舞い等で面会に行き、情報を得て職員間で共有している。家族・病院との連絡を密に取り、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応方針」の同意書を頂いている。ご家族、ご本人の意向を聞き、ターミナルケアの支援に取り組んでいきたい。	利用者の中には、身体状態の重い方もホームでの生活を継続しているが、利用者の看取り支援については、医療機関へ移行して対応している方が多い現状でもある。利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いが重ねられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同会議で、応急手当対応訓練を実施し、職員に訓練している。マニュアルも整備し、参加出来なかった職員にも、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を行っており、日頃から入居者様、職員の意識を高めている。	ホームでは、毎月を基本とする避難訓練が行われており、年間を通じて訓練を行いながら、職員間の連携につなげている。関連事業所と連携した取り組みや地域の方との協力関係も行われている。また、関連事業所と連携しながら備蓄品の確保が行われている。	現状、関連事業所との交流についても困難になっている状況が続いていることもあるため、ホーム建物の構造上の制約も考えながら、継続した関連事業所との協力関係の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声掛けには、自尊心を損ねない支援を職員間で共有できるよう努めている。	ホームの基本理念にも利用者を尊重した対応を行うことが掲げられており、職員が日常の支援を通じて利用者への対応や言葉遣い等につなげるような働きかけが行われている。また、運営法人で職員の接遇につながる振り返りも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるような言葉かけをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れ中で、ご本人のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を定期的に利用して、ご本人の希望に沿った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳のお手伝いをして頂いたり、クッキングでは職員と一緒に下準備を行っている。盛り付け、色合い、食器などに注意し工夫をしている。	食事については、外部業者も活用しながら提供しており、ホームのキッチンで盛り付け等が行われている。ホームでデリバリーやお弁当等を取り寄せ、利用者の楽しみをつくっている。また、利用者の身体状態に合わせたソフト食の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに対応した食事形態で提供している。摂取量は、食事量と水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを施行している。週一回訪問歯科に来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、個々の排泄パターンを把握し、様子を見ながら時間を決め、トイレ誘導している。自立を促し出来る限り、トイレでの排泄に取り組んでいる。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら職員間で検討を重ね、職員2名で支援する取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で確認を行い、食事・水分はもちろん適度な運動を心掛け予防に努めている。また滞っている時は下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順は、ローテーションを取り入れ、体調や希望により柔軟に対応している。入浴剤などを使って楽しんでもらっている。	ホームでは、月曜日から土曜日の間に入浴の準備が行われており、利用者は週3回を基本とした入浴が行われており、時間も午後に行われている。入浴を拒む方も職員間で声かけを行い、定期的な入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて、いつでも休息できるように支援している。日中は適度な運動で、夜間スムーズに入眠出来るよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況は個々の薬剤情報をファイルに閉じ、常に確認できる状態にある。誤薬・飲み忘れのないよう二重確認をし、投薬時には読み上げ確認の徹底をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて配膳、体操や食事の号令など役割を持って生活出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響で出来ていないが、普段は年間行事にて外出や外食に出かけている。	感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、ホーム近隣を散歩する等、現状で可能な範囲で外出支援が行われている。また、利用者の希望等に合わせた外出も行われており、利用者の中には移動図書館を活用している方もいる。	利用者の外出の機会が限られた範囲となっている状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者様には、自由に買い物したり、支払いが出来る環境作りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ事務所の電話で家族等とお話ができる様支援している。年賀状などやり取りされている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様とともに手作りの季節の絵などの作品を飾り、明るい雰囲気心をかけている。トイレを誘導する貼り紙で、利用者様が混乱をまねかないよう工夫している。	ホームのリビングが建物の2階にあり、窓も南向き設置されていることで、採光にも優れた環境であり、利用者は日中の時間を明るい雰囲気でも過ごしている。また、リビングや通路の壁面には、季節感のある飾り付けや利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席で各々自由に過ごされており、また居室以外でも独りになれるよう事務所前の玄関に椅子を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの家具や寝具など使って頂いています。部屋の中には家族の写真やご自身で作った作品など飾られ、居心地良く過ごせるよう支援している。	居室には、利用者や家族の好みや意向等に合わせた持ち込みが行われており、使い慣れた家具類や趣味の物等、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、手作りカレンダーや自身の作品等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレの場所を誘導する張り紙や使用中の看板、居室のネームプレートには写真を貼り、生活できるように支援している。		